

Charinco～鳥大生の使用状況から見る改善策～

F班 岡田 慎太郎、北野 裕也、
 鈴木 健太、常松 信之、
 畑 真太郎、的場 勇人、
 山本 詩織、松田 幸大



・背景と目的

学内のことについて調査・研究したいと思った。

↓

以前から駐輪マナーが悪かった。

↓

新しい駐輪制度への移行でどう変わるか。

↓

新制度を評価して、学生の立場を踏まえて改善策を考える。

・調査方法

- 生活支援課への聞き込み
- 5月および7月の駐輪状況の実態調査
- 学生へのアンケート調査

・調査結果 1

～生活支援課への聞き込み～
 (2011年4月28日に生活支援課にて)

旧制度の問題点

- 旧制度は、登録の手間がかかる。登録者数は20%以下と少ないのに学校側がデータを残す負担がかかる。また、故障などで新しく買い替えた人で再登録する人も少ない。

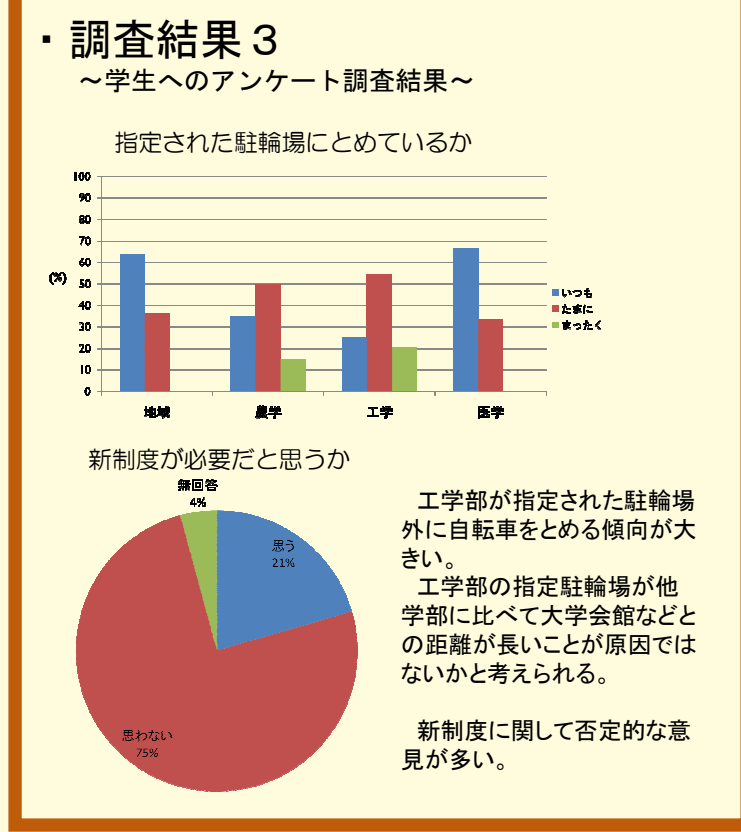
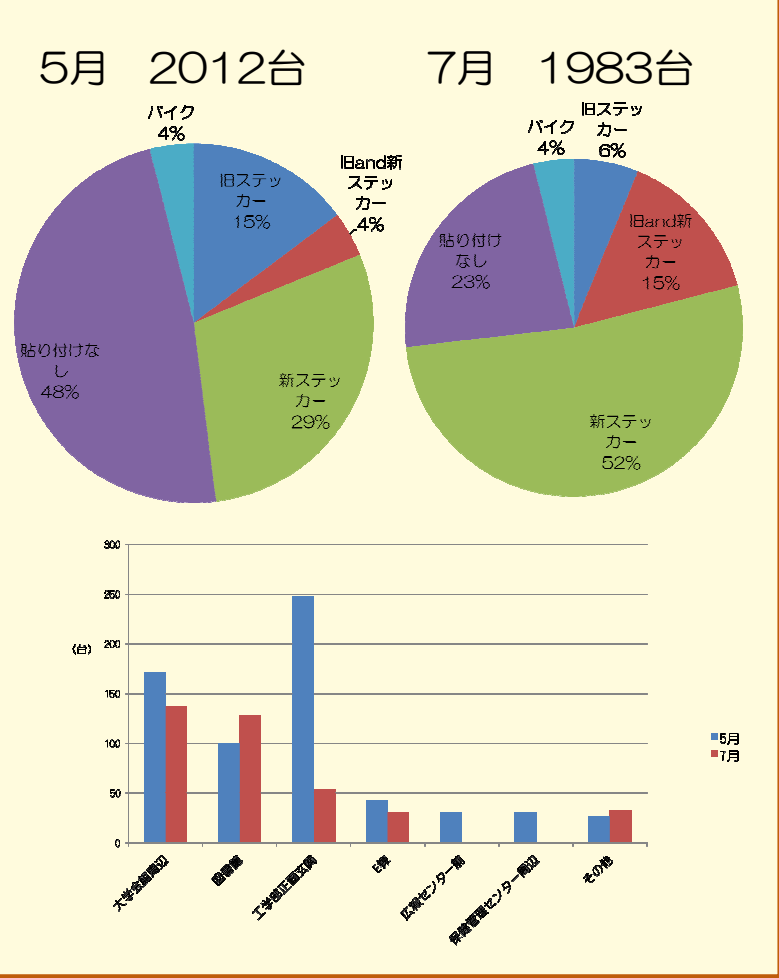
学内の駐輪の実態

- 全学共通科目などで利用者の多い共通教育棟の周りなどはひどい状況である。(特に生協側、緊急車両・荷物車両が通れない。)
- スピードの出し過ぎなど、マナーも問題(学内を自転車で移動することが慣例になっているので)
- 工学部正面玄関前に自転車があふれ、緊急車両などの妨げになる。また、学内の景観を損ねる。

・調査結果2

～5月および7月の駐輪状況の実態調査～

・5月および7月の総台数およびステッカー貼り付け状況の変化



・結論

新制度の効果はロープなどの規制によりある程度出ていることが今回の調査から明らかになった。
 新制度に否定的な意見が多いので、ロープを外した時に効果が持続するのかが問題である。
 しかし現在のロープが張ってある状況では景観としてどうなのか。
 学生に制度を守ってもらうためにも学生の意見をふまえて駐輪制度を考えるべきであった。